

第 21 回地理情報システム学会特別セッション (2)
「マイクロジオデータの普及と都市・地域分析での利活用」議事録

文責 羽田野真由美

- 10:55- 「マイクロジオデータ研究会の紹介」(東京大学・秋山)
11:00- 「マイクロジオデータの紹介とマイクロジオデータ研究の最前線」
(東京大学・秋山)
11:15- 「i タウンページを用いた広島市内の商業分析」(広島修道大学・川瀬)
11:30- 「広島市佐伯区における地域課題の解決について」(広島市・高橋)
11:45- 「大規模モバイルデータを用いた国土スケールの人流の可視化」
(東京大学・上山)

※以上の発表資料はマイクロジオデータ研究会ホームページ、第4回マイクロジオデータ研究会からダウンロード出来ます。

<http://geodata.csis.u-tokyo.ac.jp/wp/?p=490>

公開ディスカッション、質疑

コーディネーター	東京大学 教授・柴崎
パネラー	株式会社 JPS 代表取締役・平下 広島修道大学 教授・川瀬 広島市佐伯区地域おこし推進課・高橋 東京大学 特任研究員・秋山 東京大学 特任研究員・上山

柴崎 個別の話について、なにかご質問などありますか？

(会場) マイクロジオデータは既存の都市計画基礎調査の根本をくつがえすほどのインパクトがあるのか？現状は、40年前に作られた都市計画の用途地域にもとづいているため、実際のものとかげ離れている。その点で既存の都市計画を改善する機運を高めるためにも、マイクロジオデータには期待している。

柴崎 都市計画については、佐伯区の高橋さんにコメントお願いできますか？

高橋 佐伯区の例では現状を把握し、可視化したいと考えたときに、確かにマイクロジオデータが必要となった。

柴崎 施策を打つ上で、行政としては具体的にどのような情報が欲しいのか？

高橋 例えば、世帯主年齢、世帯構成、車の有無、施設自宅間の距離・高低差などの統

計データが必要となる。また、高齢者の行動に関する情報も知りたい。例えば、個人的には団地内の高齢者に限ったミニパーソントリップのようなデータがあるといいと考えています。

柴崎 現在、東大のマイクロジオデータ研究では、住宅地図と住宅統計を利用して、国勢調査の非集計化、つまり世帯分布・構成人数を住宅単位で推定している例もある。このデータは食料品店などの位置情報と組み合わせることによって、買い物難民の抽出などにつながる可能性がある。とはいえ、まだ研究段階であり、人口密度があまり地域などではデータが粗なため、すぐに実用には結びつかないかもしれない。人流データと商店街活性化については、高橋さんに伺いたいと思います。

高橋 商店街は徒歩圏内にも多く分布しており、人流が多い地点でも素通りされている所もあれば、繁盛するところもある。その違いはやはり商店の魅力が関係するのではないか。

柴崎 マーケティングについて、民間としてはどのように考えるか？

平下 まず、商店に魅力がなければお客さんは来ない。例えば、近隣に競合店がないにも関わらず、衰退している商店があるとすれば、それは店主の努力不足の可能性が高い。買い物難民に対しては企業が移動販売を推進しており、今後その市場は拡大するポテンシャルがある。衰退している商店もそこに活路があるのではないかと思う。商店の衰退に関しては、細かい分解能のデータが足りないというよりは、むしろ努力面の方が大きいのではないか。

柴崎 店舗の魅力を評価するのであれば、単純な位置だけで商店の評価を行なうのではなくて、人流データを利用して店前の通過人数などを算出し、例えば（売り上げ/商店の前を通過する人数）＝（パフォーマンス指標）のような、指標をつくりあげるのが面白そう。

平下 現在、大型店の飽和・商圈の縮小が進んでおり、これからは小型店の出店が増えてくると考えられる。そうであれば、既存のデータの集計範囲は大きすぎることは明らかであり、マイクロジオデータの意義は大きい。加えて、人流データは究極のデータであると考えている。

柴崎 フロアから、コメントや質問はありますか？

(会場) マイクロジオデータを顧客管理や社員管理につかうことで、なにか発展があるのではないか？

平下 全くその通りだと考えている。特に、顧客管理については、ポイントカードなどを筆頭として、顧客の居住地、属性を把握した上でのサービスが進んでいる。これは、商店側のメリットにもつながるし、もちろん顧客の満足度にも繋がる。

(会場) 上山さんのデータについて質問がある。都市圏レベルの GPS データの可視化結果ムービーにおいて、東から西へ移動する人の流れが卓越して見えるのはなぜか？

- 上山 これは可視化の際の色遣いが原因で、暗い色が見えづらくなっているため、もちろん西から東の流れも多く存在する。これについては今後改善したいと考えている。
- (会場) 既存の統計をクロスして利用する、また、古いデータをさかのぼって新たな統計データを創り上げてもらえると助かる。
- 柴崎 統計を組み合わせることは、高精度化につながるが、個別の地域でしか使えない場合や欠損がある場合など、汎用性が欠ける可能性もある。また、行政が管理するデータは、管理が厳しくて使いづらいので、ペーパーワーク面での改善も期待したい。
- (会場) 複数データを利用するデメリットとして、欠損や矛盾が生じる可能性があるが、その場合のしかるべき対処法などについて、今までの経験から得られた知見があったら教えてほしい。
- 柴崎 現在では個別の人がその人なりに工夫している例がほとんどで、その知見はバラバラになってしまっている。これらの知見が集まれば、なにか上手く出来ると思う。その意味で知見を集めることが大切。
- 柴崎 最後にパネリストから一言ずつお願いします。
- 秋山 これからもマイクロジオデータをみなさんに使っていただける環境を整えていきたい。
- 上山 私も商店街を素通りする人間。商店街の人に納得感をもって改善にとりくんでもらうためにも、人流データを利用したパフォーマンス指標のようなものは良いと思う。
- 川瀬 広島の間地や商店街について調べてきていて、解析に使う元データの精度が重要であることが分かった。その精度を向上させることが大切。
- 高橋 行政としては、1. 住民の個人情報管理、2. その情報を活用という二面性を持っている。難しい立場であるが、GISの手法をつかって出来る限り有効活用していきたい。
- 平下 地域の消費者・商店主に役立つようにマイクロジオデータを活用していきたい。

次回マイクロジオデータ研究会関連イベントのご案内（東大・秋山）

GIS学会ビジネス分科会（要予約）10月19日@東京大学本郷キャンパス工学部

FOSS4G Tokyo2012 ハンズオンデイ 11月5日@東京大学柏キャンパス